

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 環境創造センター

所管課 環境共生課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	環境回復	研究開発事業(放射線計測)	空間線量及び放射性物質の測定法に関する研究	歩行サーベイ(歩きながら自動的に空間線量率を測定する技術)及びドローンによる測定技術を開発することにより、様々な地点で空間線量率を面的に測定できる体制を整備する。また、クリプトン-85のバックグラウンド濃度レベルを把握するとともに、連続測定の実用性について検討する。	ドローンにより測定された空間線量率の精度及び上空の測定値を地上1mの測定値に換算する手法について検討する。また、三春町におけるクリプトン-85の濃度測定を実施し、国内の他地点と比較するとともに、連続測定の実用性について、文献調査等による検討を行う。	H28	R2	B	クリプトン-85のバックグラウンド測定及び歩行サーベイ測定技術開発は研究を終了しているが、ドローンによる測定技術の開発は来年度まで、データを取得する必要があるため、継続されるべきである。	地道な研究遂行が読み取れます。ドローンによる測定技術については、地表結果との比較検討のみならず、地上物の存在やその質、地形などの要素を反映させた考察にまで議論の範囲を広げると、研究成果の一般性とさらなる汎用性につながるものと考えます。
2	環境回復	研究開発事業(放射線計測)	モニタリング結果の評価・活用に関する研究	膨大なモニタリング結果について、県民に分かり易く、利用し易い情報環境を提供するため、データベースを構築し、併せて線量分布マップを作成し、その成果を周知する。	対象地域・データを順次拡大し、より膨大なデータを用いた精度の高い線量分布マップの作成に係る技術を蓄積し、簡易な当該マップの作成システム等を構築する。	H28	R2	B	当該研究については、データの公表の仕方や活用の方法等についても検討する必要がある。	県民視点にたった精度の高い情報の提供に寄与する研究といえます。研究の課題としては、福島県内のケーススタディに終始することなく、ここで得られた知見や方法をどのように一般化し、標準化していくかの視点も重要であると考えます。ケーススタディにとどまるのはもったいないでしょう。
3	環境回復	研究開発事業(除染・廃棄物)	廃棄物の埋立処分後の放射性セシウム挙動に関する研究	浸出水処理施設における放射性Cs流出防止策の検討、及び処分場内における放射性Csの移行挙動シミュレーションから安全性を明らかにし、施設管理者及び住民の不安解消を図る。	埋立処分場において詳細なモニタリングを行うと同時に処分場内の放射性Csの移行の挙動シミュレーションを行う。また、浸出水処理施設での使用に合致した放射性Cs吸着材を検討する。	H28	R2	B	放射性Csの移行挙動を解明し、処分場の浸出水から検出されない処理方法を各自治体に提示できるようになることを期待する。	得られたデータの解説にとどまらず、科学的知見に基づく定性的、定量的な解析と解釈にまで考察が展開できると、研究成果にちから強さが増すと考えます。国際的な視点でも意義付けのしやすい課題であるため、さらなる前進を期待します。
4	環境回復	研究開発事業(環境創造)	猪苗代湖の水環境に関する研究	流入河川からの栄養塩類や汚濁物質の負荷特性及び猪苗代湖内部での生物活動に由来する有機物の動態について明らかにする。	湖水中性化メカニズムの解明及び汚濁負荷原因の解明を総合的に進めることにより水質汚濁の原因を明らかにし、水質改善に向けた効果的な方法等について検討を行う。	H28	R2	A	水質変動メカニズムの解明に寄与するデータ及び知見が集積されてきている。汚濁負荷原因の解明を今後の汚濁負荷低減手法の検討や体系化に結びつけていくことは非常に重要である。	湖内におけるCOD上昇機構について現状での取りまとめができたことは評価できる。一方で河川からの流入負荷量について、測定値の箱ひげで評価しているが、これは年間流入フラックスで評価すべきものであり、科学的な取り扱いとは言えない。流入フラックスの自記データ取得等につとめより全体像が把握できるような研究を期待したい。

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
5	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	基盤技術開発支援事業	3Dスキャナを活用したデジタル製造技術の確立	伝統工芸品を3Dスキャナ等で測定を行い、測定したデータをもとに、手仕事とデジタルファブリケーション機器を組み合わせた製造方法を開発する。	<ul style="list-style-type: none"> 形状特徴によるスキャンノウハウの取得 測定データをもとに3Dデータの編集方法 製品の試作品の製作及び量産用型の試作 	H30	R2	A	複雑な形状のものの3次元測定が可能となったこと等、計画以上の進捗状況である。また、引き合いもあることから、拡充してやるべきである。	複雑な形状の計測と試作が可能となっており、少量多品種となりがちな伝統工芸品の製造支援技術として期待できる優れた成果である。手作りであるという「大きな価値」を損なわないで、伝統工芸の伝承までを支援できるものであることを、高く評価したい。研究開発の継続が強く望まれる。 優れた試作品を対外的に幅広くアピールし、支援できる技術範囲を拡げていくことが、本技術の発展に必要と考える。協力企業との打合せ・新たな協力企業の発掘・試作・出展などに、相当の予算が必要と思われるが、現計画の予算額で十分か(不足ではないか)検討する必要がある。

試験研究機関名 水産資源研究所
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
6	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	有用魚種の養殖技術に関する研究(ホシガレイ養殖研究)	閉鎖循環システム等の新施設を利用し、ホシガレイを対象とした長期間飼育する養殖試験を実施し、養殖事業展開へ必要な知見を得る。	ホシガレイ種苗を異なる条件下で継続飼育し、目標サイズと目標生産尾数までの成長・歩留り等を明らかにし、生産コストを比較検討する。	H29	R3	B	ヒラメに次ぐ栽培漁業対象種として、価格の高いホシガレイのニーズは高まっている。栽培漁業を成立させるために、種苗を低コストで安定して供給する技術の確立に向け、成果を重ねている当試験は継続する必要がある。	ホシガレイ種苗の生産コストを削減した生産システムの構築に向けて、順調に進捗していると評価できる。自己評価は妥当である。 比較的大規模な飼育実験であるため、複数年の実験結果を比較する必要があるが生じる可能性があるが、複数の飼育条件が異なると、要因比較が困難となる。比較する要因以外の条件をできるだけ揃える配慮が必要であると思われる。
7	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	栽培漁業対象種の放流技術に関する研究(有用魚種の大量放流技術の開発)	本県水産業において重要であり、松川浦等のごく沿岸域で稚魚の分布が確認されている異体類等について、栽培漁業の低コスト化と、対象種拡大につながる仔魚期での大量放流技術について検討する。	ホシガレイ、イシガレイ、マコガレイ、メバル、アイナメなどの有用魚種について、仔魚を大量生産して放流する技術を開発するとともに、効果を確認・評価する追跡調査手法を検討する。	H29	R3	B	仔魚期での放流を前提とした栽培漁業の確立に向け、ホシガレイ仔魚放流による資源増大効果を把握するため、仔魚放流と追跡調査を継続する必要がある。その他の有用魚種については、仔魚の大量生産技術の開発等を行う必要がある。	対象魚種のうち、先行して実施しているホシガレイについて着実に成果が挙がっており、順調に進捗している。自己評価は妥当である。 ホシガレイ以外では、一部魚種については作業を行っているものの、まだ目立った成果が得られていない。残り2年で一定の成果を上げるよう努力する必要がある。